

なかけん 現場紹介

東京国際空港 給水管敷設替等工事

土木本部 金田 学

国土交通省東京航空局の発注、また施工箇所が羽田空港ということで、ナカケンブランドが通用しない場所での現場着手となりました。
現場事務所も羽田空港内のワークステーションという現場事務所村の中に構えることとなり、名高い日本を代表するゼ



ネコンと並んで事務所を建て日々進んでいます。
現場は打合せが非常に多く、JAL・ANA・海上保安庁・気象庁・空港警察等々、都会の人種にもまれる毎日です。ひとつの提出書類をとっても、「燃えよドラゴンの五重塔」みたいに1部署1部署クリアして初めて認められる、という構造で、最上階のステージを制覇したときの快感はいいものです。
井のなかの蛙が大海にでる気持ちで工事完了時には、「ナカケンブランド」を世に知らしめて帰ってこれればと思います。



●工事名
平成18年度 東京国際空港
旧整備場地区 給水管敷設替等工事
●発注者
国土交通省 東京航空局
●工事場所
東京国際空港内

首都圏中央連絡 自動車道 河原口高架橋南工事

土木本部第2PJグループ
関尚彦



当現場は、神奈川県海老名市と厚木市に挟まれた相模川の左岸側の旧河川敷内に相模川に沿って建設される高速道路（通称「相模縦貫道」）の橋脚下部工を施工します。相模縦貫道は相模川左岸で現東名、その南側で第二東名とアクセスし、相模川上流の北側方面では、国道246号等の主要幹線と連絡しながら、首都圏とアクセスする外環道路（通称「圏央道」）に接続する計画です。



今回、山梨の長田組土木（株）さんと共同企業体形式で現場を運営しており、現在中村建設からの出向は私（関）1人長田組土木さんから3人の計4人の職員構成ですが、年明けより当社から職員が増員される予定です。現場は橋台1基と橋脚31基の施工がメインで、付随する付帯工では市道及び県道BOXの付替え、用排水工等があります。
現在の進捗状況は8月に試掘り、10月中旬より場所打ち杭の施工を開始し、12月1日現在では、ランプ橋3橋の杭打設が完了し、年末までにランプ橋2橋のフーチングまで施工の予定です。また年明けからは相模縦貫建設に伴い、移動・拡幅される市道と交差する県道のボックスカルバートの構築に伴う準備工、仮設工の施工を開始します。

現場の特色としては移転予定の民家、自動車学校等が点在しており、順次移転後神奈川県による相模川新堤の築造が行われ、その後橋脚の施工となるため、区間ごとに着手時期の制約があります。連続しての施工が困難な状況にあります。工期が3年間に設定されているのはこのためです。また県道のBOX構築箇所にはN・T・T、東京電力の光通信ケーブルが各々2路線と地下電力ケーブル、県企業庁の水道管等の埋設物が存在し、施工に際して細やかな配慮が要求されます。まだ工事が始まったばかりですが、これらの問題点を克服しながら全工期無災害で完工出来るよう努めたいと思います。



●工事名
首都圏中央連絡自動車道
河原口高架橋（下部）南工事
●工事場所
神奈川県海老名市新田、河原口 地先

●工期
平成18年3月31日、平成21年3月14日（7080日間）
●発注者
中日本高速道路株式会社 横浜支社
●請負者
長田組土木（株）・中村建設（株）
●特定建設工事共同企業体
●工事内容
延長 699m
橋台 1基
橋脚 31基
基礎（場所打ち杭φ1.2m） 4579m
付帯工 一式
雑工 一式

豊川用水二期 白須賀支線 長谷工区工事

土木本部 水本 浩

豊川用水は、全面通水開始以来30余年が経過し、近年、漏水・破損事故が顕著になり、適切な水配分や施設の安全性を維持することが難しくなっています。万一不測の事態が生じた場合は、市民の生活用水はもとより、農業・工業などのこの地域の産業に深刻な打撃を与えるこ

とが予想されます。

このため、この事業では、水路施設を改築し、施設の安全性の回復を図るとともに、幹線水路の複数化及び付帯施設の整備により、安定的な取水と適切な維持管理の確保と、効果的な水利用と合理的な水管理の実現を図ります。

本工事の内容として、工事場所は湖西市白須賀地内、工期は平成18年8月23日～平成19年8月7日迄、施工延長約1115mで既設の石綿管φ350を撤去し、新たにタクトイル鋼鉄管φ350を敷設する工事です。

今回初めて工事を頂いた独立行政法人水資源機構豊川用水総合事業部に迷惑をかけるまいと、無事故・無災害にて工事が完成し、工程制限を守るように努力していきたいと思っています。

（作業所長 水本浩、工事係 米村優志）

